

グラフィックサービス

GS
JaGra

発行：一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

Valentine's day



● 巻頭企画

未経験の転職者である私が栄光の座を掴むまで

InDesignマイスターへの道

● 特別企画

ガリ版伝承館が企画展を開催

● 連載・シリーズ

ジャグラコンテスト **第1次審査課題解説④**

需要創出を考える⑱

● NEWSとお知らせ

1.8 理事会で中村会長続投を決定

ジャグリストの木

GS No.819
2020
02

電子版無料公開中!

スマホでも本誌が読めます

公式HPで本誌PDF版を公開中。
紙媒体より1週間早い毎月中旬に
ご覧いただけます。バックナン
バー閲覧もここから!



<https://www.jagra.or.jp/>

なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。会長の中村耀です。新しい年を迎え、はや一か月たちました。この間、北陸地協、秋田県支部の新年会に招かれ、行かせていただきました。

秋田県支部の新年会は、会員だけでなく多くのお客様も出席して盛況で、松原支部長が元気に仕切っていました。ものすごい熱気で頼もしく感じた次第です。東海林さんや熊谷さんも PrintNext2020 の準備で大変でした。500 人を超える参加者を迎えるとのこと、盛況でなによりです。

北陸地協の新年会も各支部の会員が出席して盛況で、福井の江守支部長には大変お世話になりました。総会においても高橋地協会長（新潟）の問題提起で、奥の深い議論が交わされ、本部にとっても考えなくてはいけない問題も多数あり、非常に参考になりました。地協の皆様、本当にありがとうございました。

CONTENTS

●巻頭言

01 働き方改革の不安

——ジャグラ理事 / 倉敷印刷(株) 清水隆司

●巻頭企画

02 未経験の転職者である私が栄光の座を掴むまで InDesignマイスターへの道

「当たり前」の日常作業を「面倒だ」と思うことが重要!

——(株)ニューキャスト / 愛知 秋月由莉

●特別企画

08 謄写印刷と学校をテーマにした 滋賀県東近江 ガリ版伝承館が企画展を開催

「ガリ版のある風景—学校に刻まれた手刷りの温もり—」

——新ガリ版ネットワーク事務局長 田中 浩

●連載・シリーズ

14 オペレータースキルアップのために ジャグラコンテスト第1次審査課題解説④

InDesign 問題2: スクールパンフレットの制作

26 需要創出を考える⑱ (株)ニシキプリント (広島) さんの事例 「折鶴再生紙」を「あぶらとりがみの包装」に活用

●NEWSとお知らせ

06 文化典高知大会 実行委員会より ——副実行委員長 / (株)リーブル・専務取締役 坂本圭一郎

18 理事会 & 委員会通信 1.8 理事会で中村会長続投を決定

20 ジャグラ緊急連絡網 地震・大規模水害など緊急事態が発生したときの手順

23 業界の動き マスターズクラブがゴルフ大会を開催 各地で新年会開催される

29 ジャグラ作品展のご案内

05 コラム

28 事務局日誌と今後のスケジュール

月刊

グラフィックサービス

発行 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

働き方改革の不安

巻頭

ジャグラ理事 / 倉敷印刷(株)

清水隆司



本格的に中小企業でも始まった「働き方改革」。弊社でも2018年から様々な準備に取り組んできた。まずは、残業時間80時間/月以下と有給休暇の取得について。年間残業の多い社員で100時間レベルは、部門ごとに数名いる。有給休暇は、3月の繁忙期以外は基本的に部門・チーム内で調整し、取得しやすい環境にしてあるので問題はない。介護・育児休暇制度を採用してから取得しやすい環境になっている(先輩が休むので言いやすいようである)。残業については、今まで仕事量ありき、納期に間に合わせる為に社員一同必死に頑張ってきた。よって仕事のできる人に集中し、仕事の遅い人も必死に納期に間に合わせるように頑張ってきた。月80時間以上残業した場合、産業医と面談。次に80時間を超える月が連続や年間で多い場合、部門長&社長と3者面談。仕事量を他者へシフト。今度は、45時間以内にしなければと、昨年、働き方改革に向けて社員面談再開。すると社員からの下記のクレーム。

- ①仕事が終わらない
- ②他の人に任せられない
- ③残業代も生活費の一部
- ④家に帰りたくない。

解決策は、①と②は部門内で仕事分散、④は夫婦間の問題なので関わりたくなく「寄り道しな!」、③が一番深刻で仕事の能率を上げ、結果・成果を出してボーナスを上げるしか方法がない。やはり仕事のできる社員への残業時間を45時間に抑えるために余り残業していない社員へシフトが一番大変である。

●残業について

◎残業の多い人の特徴

- ・仕事ができる(早い)為、皆が頼って集中してしまう
- ・頑張ってる早く一人前になりたい
- ・子供の教育費にお金足りない
- ・ローンの返済
- ・家に早く帰ってもやることがない

◎残業の少ない人の特徴

- ・定時で働く時間で体力的に限界
- ・子供の保育園(お迎え)
- ・定時給料が良い、遊ぶ時間が優先
- まさか会社が、残業を抑える活動をして文句を言われるとは想定外で戸惑う(社員に感謝感謝。労働局と喧嘩したろうかと思ってきた)。

大手企業で過重労働をよく聞く。1年間通して毎月100時間以上の残業なんかさせたら、我々中小企業ではすぐ退職してしまうのに、それでもしがみつくなのは大手だからであり、大手

で使えなくクビになること世間体を気にして頑張り、過労死してしまうのでは? 中小企業においては政府がしゃしゃり出ないで会社に任せて欲しいと思う。

働き方改革もアメリカからの要請と聞いている。狩猟民族と農耕民族は、同じ考えで仕事ができない。そこがトラブルの元では。狩猟民族と農耕民族との違い、資源が豊かな国とない国との違い。アメリカやオーストラリア・中東などは、石油・鉱物など資源がある。だから、国が社会保障・老後・医療を保障してくれる。

賃金UP、日本は安すぎると言われる。アメリカの低所得者は年収1000万円、オーストラリアの最低時給は2500円。すごいと思うが物価が日本と比べ、アメリカ約2.5倍、オーストラリア約3倍(2500円÷3=約834円)たいして貰っていない。

資源のない日本・韓国などは、知恵を使い、輸入した資源を加工し、付加価値を付けて輸出することで成り立っている。

狩猟民族は、基本個々の利益を第一にする。獲物を捕る。腹が満たされれば必要以上に獲物を捕らない。弱肉強食。給料は2週単位支給が多く、職務給制度「仕事に値段をつける、人をつける」という発想。

農耕民族は、チームで作業し個々の利益を得る。長期計画で畑を耕す。実った作物は皆で分ける。給料は月単位支給、職能給制度「人に値段をつける、仕事をつける」という発想。

韓国は働き方改革を先行して行っているが、最低賃金を2018年に16.4%、さらに2019年に10.9%上げ、労働時間削減による求人困難、作業効率の悪い社員はリストラせざるをえなくなり、失業率上昇、学生の就職率は低下した。給料もかなり下がり、デモやストライキが頻発。それを韓国政府は、反日問題ではぐらかしている。

日本も毎年上がる最低時給。人手不足により初任給を上げる。労働時間の削減。これできちんと企業の利益が上がり、給料がUPすれば誰も文句がない。

働き方改革(欧米主導型)は基本的に日本・韓国には合わないと思っている。法律なので従うしかないが、実態不況・人手不足・成果・定時・昇給・ボーナス、このキーワードの答えは、職務給制度(欧米型)に発想を変えないとならないのか?

韓国の二の舞を演じるのか不安である。

未経験の転職者である私が栄光の座を掴むまで

InDesignマイスターへの道

Id 「当たり前」の日常作業を
「面倒だ」と思うことが重要!

(株)ニューキャスト/愛知 秋月由莉



昨秋の全国協議会におけるセミナーのキーワードは「生産性向上」でした。厳しい経営環境の中で、印刷会社が利益を確保するためには、全工程を見直してあらゆる改善をする必要がありますが、「DTPオペレーターのスキルアップ」は、それほど費用もかからずすぐに効果が現れるという意味で、最優先の事柄かもしれません。

DTPソフト三種の神器である Adobe InDesign や Illustrator のスキルを競う「ジャグラコンテスト」も、そのような効果を狙った事業ですが、2019年の InDesign 競技において、見事マイスターの座を射止めたのが秋月由莉さん (株)ニューキャスト/愛知: 会員外)。受賞が決まってご本人にいろいろお話をうかがうなかで、未経験の転職者として DTP の世界に入り、「ジャグラコンテスト」をきっかけに努力を重ね、マイスターを勝ち取ったことを知り、栄光までの経緯を秋月さんにご寄稿いただきました。

×

InDesign マイスター戸田さんとの出会い

初めまして! 愛知県の(株)ニューキャストで働く DTP デザイナーの秋月由莉です。この度、ジャグラ様主催の「2019年ジャグラコンテスト InDesign」において、栄えある「5代目 InDesign マイスター」に選ばれました。遡ること8年前、未経験の転職者としてこの業界に入りましたが、美術系の学校を出ていない自分にとって、当初は知らない事だらけだったため、「どうしたらもっと効率良く制作出来るのか」と、自分なりに試行錯誤を重ねてきた日々でした。

本稿では、そんな自分が「InDesign マイスター: 制作効率化のプロ」にたどり着くまでに、「学び、考え、

実践」したことを紹介したいと思います。

未経験から DTP オペレーターになってから6年目までは、主に「オペレーション作業」がメインでした。先輩方に作っていただいたフォーマット(設定)を元に「組む」のが基本なお仕事。稀に自分で作る事もありましたが、ほぼ未経験に近い状態でした。

そんな私が、「効率化を意識したデータ作成」を目指すきっかけとなったのが、Adobe が同社の Creative Cloud に関する情報をネット配信している『Creative Cloud 道場』の#214(2018年6月1日)。その回には、2代目 InDesign マイスターである日経印刷(株)の戸田大作さんが出演され、数々のテクニックを披露していましたが、最初はその仕組みが全く分からず、開いた口が塞がりませんでした。

業界の最先端の達人の方々は、こんなクリエイティブな作り方を実践しているのかと非常に衝撃を受け、

Adobe がネット配信している『Creative Cloud 道場』は、毎週木曜夜8時から Creative Cloud に関する内容を生放送するインターネット番組。この#214回には2代目 InDesign マイスターである日経印刷(株)の戸田大作さんが出演し、数々の超絶テクニックを披露。ジャグラおよびジャグラコンテスト InDesign の PR に大いに貢献した。<https://youtu.be/-FKzLXiWaH8> で視聴可能です



「ジャグラコンテスト第5回」には Illustrator 競技に77名、InDesign 競技に88名、合計165名の応募がありました。写真は2019年10月26日に本部 DTP スクールで行われた第2次審査・実技試験の様子。

そして同時に、ただ単に「組む」だけでなく、「効率化を仕込んだデータ作成に自分も挑戦してみたい!」と胸に刻んだのです。

作業者としての「現実」「挫折」そして「転機」

とは言え、経験が無い私にいきなり会社は任せてくれません(当然です)。そこでまずは、「1年勉強して、コンテストで実績を出そう!」と、ジャグラコンテストへの挑戦を決意したのです。

ちょうどその頃、働き場が異動になりました。当時は「部内で一番手早く正確な DTP オペレーター」という自信を持ち、技術的な不安は全く無しのハズでしたが、異動をきっかけに「DTP 作業は海外オペレーターが主流」になり始めている業界の現実を初めて目の当たりにします。日本より少し精度は落ちるけれど、手が早く、単価も1/5程度だとしたら、同じ土俵で戦っても到底勝てるハズは無く……。

今までのように、ただ「オペレーション作業」をしているだけでは、いつか生き残れなくなる未来が必ず来ってしまう——未経験から自分なりに頑張ってきた自信が、音を立てて崩れ落ちた瞬間でした。

大きな挫折を味わった一方で、それは転機の訪れでもありました。現状の海外オペレーターさんでは出来ないこと=「デザイン作業」が、徐々に自分の主な仕事になっていったのです。

時には DTP デザイナーとしてカタログの改訂誌面デザインを担当し、デザインが決定した後は『どんな手順で作業して貰うか』まで考えることに挑戦できるようになりました。



(株)ニューキャストの Web サイト <https://xmlido.jp/>

同社は昭和62年、写植版下事業で創業後、DTP・WEB制作、システム開発、企画・デザイン、フリーペーパー発行、介護事業を愛知県・岐阜県で展開。情報誌、カタログ、学参、一般書籍等多様な組版をしながら、自社制作案件の効率化を目指して、自動組版システムや周辺ツールを開発。現在は、印刷物、WEBコンテンツの制作支援ツールをクラウドサービスとして、国内外の企業に提供中。



秋月@InDesignマイスター | びい @yryama
DTPデザイナー | DTP QUESTアシスタント | 読者テク&スクリプトを活用した作業効率化を考えるのが趣味 | AIよりInDesign | 受賞歴 ▶ JAGRAコンテスト2019 InDesign マイスター(総合順位1位)
note.com/yryama 2012年2月からTwitterを利用しています
128 フォロワー 221 フォロワー



秋月さんは Twitter でも情報発信中です。ぜひご訪問してみてください。<https://twitter.com/yryama>
※本稿はこちらで書かれたものを編集部にて再構成したものです

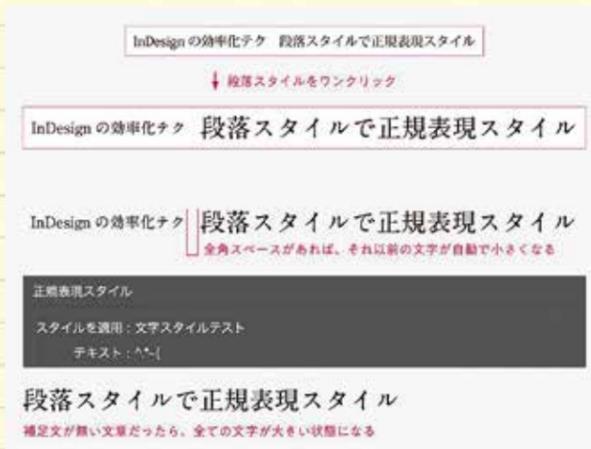


FIG-1 効率化を仕込んだデータ作成の事例 1



FIG-2 効率化を仕込んだデータ作成の事例 2

制作効率化への挑戦

海外作業の場合に精度が少し落ちてしまう課題は、どう解決するべきか——基本的に海外オペレーターさんは、面倒な仕事も文句一つ言わず手作業で、指示通り直してくれます。しかし一方、自らスタイルを作って作業したり、仕込みをしたりという事は行いません。ですが、依頼者である私たちがきっちり手順書を作って指示すれば、その通りに作業してくれます。ならば、精度が落ちやすい部分を、データ側で自動調整するようにすれば、精度が保たれるのではないかと考えました。

ここで懂れていた「効率化を仕込んだデータ作成」という自分の課題に話が繋がり、ここぞとばかりに挑戦……といっても初心者がいきなり戸田さんのような神業は出来ませんし、海外オペレーターさんの理解度も分からなかったため、最初は超初歩的な工夫から始めていきました (FIG-1)。

海外オペレーターさんにより、想定通り修正される事を確認した後は、今の自分の知識で出来る事から少しずつ仕込みを強化していきました (FIG-2)。

『当たり前を面倒とだと思ふ』ことの重要性

こうした実践の中で色々試行錯誤するうちに、少しずつ引き出しが増え、自分の中で「面倒」と思う作業が増えていきました。これは決して悪いことではなく、実は効率化を考えるうえでは最も大切なことだと思います。

例えば Fig-2 で紹介した事例——囲み記事枠の高さ

がテキスト分量に応じて自動調整&指定文字列の色の自動調整——ですが、Illustrator で制作するなら全部手動で直すのは「当たり前」です。InDesign で制作する場合はどうでしょう？ もし知識がない場合、「当たり前」だと疑問も感じず、手作業で一つ一つ直してしまうことなのでしょう。ですが、「InDesign に自動調整できる機能がある」ことを知っていたら、その都度修正することが「面倒」だと感じるはずです。

色々な効率化を仕込むようになって一番変わった事は、こういった「今まで当たり前だった作業」をどれだけ「面倒な作業」と考えられるようになったか、だと思っています。

効率化の一步は作業手順を見直すこと！

最初の一步「面倒な作業」は、どう見つけ (気づけ) られるようになるのか——自分の場合は、手順書の整理が一番近道な事が多いです。

手順を整理していると、ここは必ずこう修正する、といったルールに気づく事があります。必ず同じ色に変えるとか、アキが一緒とか。これは InDesign に限らず対機械全てに言えることですが、一定のルールがあるという事は、機械的な調整が出来るところ。見つけたルールをデータに仕込めば、「面倒な作業」が一つ減ります。

一見凄く小さな事に見えますが、自分が InDesign マイスターになれた一番の要因は、この考え方が根底にあると思っています。「これくらいは手作業で良いか」を妥協せず、面倒くさいを一つずつ満足いくまで潰し続けた自分の集大成が、今回のコンテストの 1

次試験。日頃少しずつ意識していた考え方が功を成したからこそ、あの結果にたどり着けたと信じています。

まとめ

全体を振り返ると、効率化の世界でも「まずは作ってみる」が一番大切だと実感しています。たとえどんなに小さな効率化だとしても、「今の自分でやれる方法」を必ず一度は形にしてみる。そこから可能なら、もう一度同じ物を作ってみて、「繰り返しの面倒くさい作業」

を見つける練習を繰り返すこと。仮に時短としては僅か数秒の事だとしても、その小さな発見が積み重なること、最終的に大きな結果に繋がれるのではないかと思います。

ある程度の「技術の成長」は日々の仕事をこなしてゆけば自然と身につきますが、「考え方の成長」は“変えよう”という強い意識があつてこそ、成されるものだと思います。

本稿を通して、少しでも皆さんの「面倒な作業」が、「楽な作業」に変わるきっかけになれば幸いです。

秋月マイスター、情報番組『DTP QUEST』でも活躍中！



『DTP QUEST』は、InDesign・Illustrator・Photoshop をはじめとした Adobe 製品の便利な機能紹介や、DTP に関する様々な最新情報をお届けする情報番組です。Facebook 内「InDesign の勉強部屋」ページにて、月 1 回ペースで不定期配信中です。メインパーソナリティは「InDesign の勉強部屋」主宰で、Adobe Community Evangelist の森裕司さん。秋月マイスターは、番組アシスタントとして活躍中。こちらをご覧ください。

<https://www.facebook.com/indesignstudyroom>

Column 社員の強みを最大限に活かす経営

e-中小企業ネットマガジンVol.904より転載 (http://www.chusho.meti.go.jp/e_chusho/index.html)

女性や高齢者、外国人など多様な人材がいきいきと働ける職場環境を提供し、そこから生まれる「自由な発想」を新しいサービスや製品開発につなげることを目指す「ダイバーシティ経営」。人口減少や働き方改革で人手不足が深刻化し、その重要性は増している。工作機械や半導体製造装置などで使われる精密位置決めセンサーで世界トップシェアを誇るメトロール(東京都立川市)は、いち早く実践してきた企業の一つだ。

取り組んだキッカケは、松橋卓司社長の父が創業した1976年にさかのぼる。東京・多摩地区は当時、日産自動車や東芝、IH1などの工場がひしめき、規模が小さい同社は男性正社員を採用できなかった。「モノは売れても作る人がいない労働倒産状態に陥った」と松橋社長。仕方なく地元の主婦を採用し、彼女たちに仕事のやりがいを持たせ、技能の向上と家庭との両立を図るには何が必要かを考え、雇用形態や制度を整えてきた。

製造部門の7割を占める女性パート社員の勤務時間は9時半～16時半。朝は夫や子どもを送り出し、夕方は保育園にお迎えできる。徹底したIT化と簡素な製造工程、作業マニュアルにより、素人でも1マイクロメートル精度のセンサーを入社初日から作れる。分業体制は採らず、1人が1個の製品の組み立てから品質検査、袋詰めまで手がける「1個流し方式」を採用。例えば1年目は10種類の製品しか作れないが、2年目は20

種類、3年目は30種類と年を経るごとに「多能工」化し、モノづくりの達成感と自身の成長を実感できる。

若い女性が8割を占める営業部門も同様だ。特に海外は国別に担当を分け、現地企業への訪問や交渉、展示会運営まで原則1人に任せる。海外出張経費は上司の決裁を仰がず会社のクレジットカードで即精算。この結果、年を追うごとに売上実績は上昇し、社員は成長を実感する。若手社員が発案したフェイスブックなどSNSを活用した営業手法も取り入れ、2001年に13%だった海外売上高比率は2018年に43%に高まった。

社内交流を促すため、毎年実施している社員旅行や年3回の社内ピヤパーティーも「社員ファースト」だ。社員旅行と言うと一泊旅行をイメージするが、例えば「都心のホテルで昼食後、東京宝塚劇場で観劇」など日帰りが常識。パーティーも18時前には終了する。いずれも平日実施の勤務扱いとし、費用は全額会社が負担する。

このほか「社員から改善提案を促し、毎朝のミーティングで即決裁」「本社や工場は平面ワンフロアで社内メールは原則禁止とし、社員同士の対話を促す」「人事、総務、経理部は置かず、営業、開発、製造部門だけ」などなど。松橋社長は「社員のやる気と自立心を引き出し、個々の強みを最大限に活かすことが会社の成長につながる」と信じている。

文化典高知大会 実行委員会より

文化典高知大会 副実行委員長
(株)リーブル・専務取締役 **坂本圭一郎**

いよいよジャグラ文化典高知大会まであと3か月となりました。一昨年の10月頃から2~3週間に1回ほどのペースで、西村騰写堂の西村啓専務(実行委員長)と直原支部長と私、そして途中から三宮印刷の三宮健司専務も加わり、高知大会をどんな大会にするか話し合いを重ね、ようやく内容も固まりパンフも完成しました。

一昨年の今頃はどちらかというと高知開催に反対だった西村実行委員長も、中越地協会長に「西村啓が頑張ります」と勝手に外堀を埋められ、全国のジャグラ仲間からは「お前がやらなくてどうするんだ」とハッパをかけられ、ついに自分がやるしかないという覚悟を決めました。ご承知の通り、意外にシャイで大勢の人前で話すのは苦手な西村氏ですが、今や実行委員長として誰よりも真剣に高知大会のことを考え、前例をただ踏襲するのではなく、新しいユニークなアイデアを次々出してくれます。本業で全国を行脚し、また全国からの多くのお客様をおもてなしてきた彼だから「高知に来た人が喜ぶツボ」というのを心得ているのがよく分かります。仕事においても、泥臭いぐらいの田舎らしい温もりや人情が、実はとても大事なのだと教えられます。全国の元気な印刷会社を訪問し、仕事にもつなげている彼はそんな情報を教えてくれるだけでなく、業界やジャグラの未来や動向などについても人一倍よく考えていて、さすが高知一の印刷会社の経営者です。

そして、直原支部長。真面目で穏やかな慎重派と思いきや、納得がいかないことや筋が違うことについては顔を真っ赤にし、ツバを飛ばして怒り出し、毎回、西村委員長と激論になります。西村委員長から「普段、自分に対して物申す人が少なくなってきた中で、直原さんと議論するのは楽しい、本当にありがたい」と言わせるほど。こちらまさか支部長に選ばれるだけの人物です。

私はといえば、2人の激論が長引くのに耐え切れず「今日はこれくらいでもう帰ろうや」と結論を先延ばしにしようとするのがお約束のパターン(笑)。いろいろと意見もアイデアも出すには出すが、2人ほどの意志の強さもこだわりもないので、すぐに2人の顔色を見て妥協するとうか、そもそもそれほど思慮深いわけでも覚悟があるわけでもない。この辺りが私自身の経営者としての課題だということを、2人を前に毎回思い知らされます。

そして、ちょうど1年程前から強力な助っ人として現れた三宮専務。印刷工業組合の全国大会も経験していて、細かい段取りはもちろん、3人では気づかなかったことをきっちりフォローしてくれます。「三ちゃん」と誰からも親しまれ、振られたことはニコニコ喜んで引き受けて、高知のほとんどの印刷会社から仕事を受



け信頼されている誠実な仕事ぶりを、そのまま会の運営でも発揮しています。

それから、今回の高知大会開催を誰よりも願っていたのは、やっぱり中越地協会長です。「会員増強」を常に口にされるのも「ジャグラ愛」の証し。80歳を超えても、本業でもどんどん業績を伸ばされている手腕とジャグラを盛り上げていこうという姿勢は、学ぶべきものが多々あります。今回の高知大会の運営に関して、お金だけでなく口もいろいろ出したいのだと思いますが、そこはグッとこらえて、若い世代の私たちにほとんど任せてくれています。

以前、高知県支部の中で「全国大会を開催して何かメリットがあるのか?」ということが話題になりましたが、私にとっては、こうして準備を進める話し合いの中でジャグラや業界の未来に思いを馳せ、お互いの経営者としての考え方を知り、学びあい、ときに自分の至らなさを思い知らされること、それこそが一番のメリットであり、役得であると改めて感じています。

高知大会のテーマは「高知で世代交代! ジャグラをせんたくするぜよ!」です。これは決して「老兵は去れ」というような意味ではありません。われわれ若い世代(もうそれほど若くもないのですが)が、「何のための全国大会なのか?」「ジャグラという組織はどうあるべきか?」「それぞれの会社が次の50年100年存続していくためにどうするのか?」などを、前例にとらわれず、一生懸命向き合ってみようという使命感・危機感を持つべきではないかという、田舎からの問題提起なのです。

そんなきっかけとなる高知大会にしたいと思ひますし、そうやって自分たちで組織や自社を見つめ直し変えていくという経験もまた全国大会を開催することのメリットだと思っています。

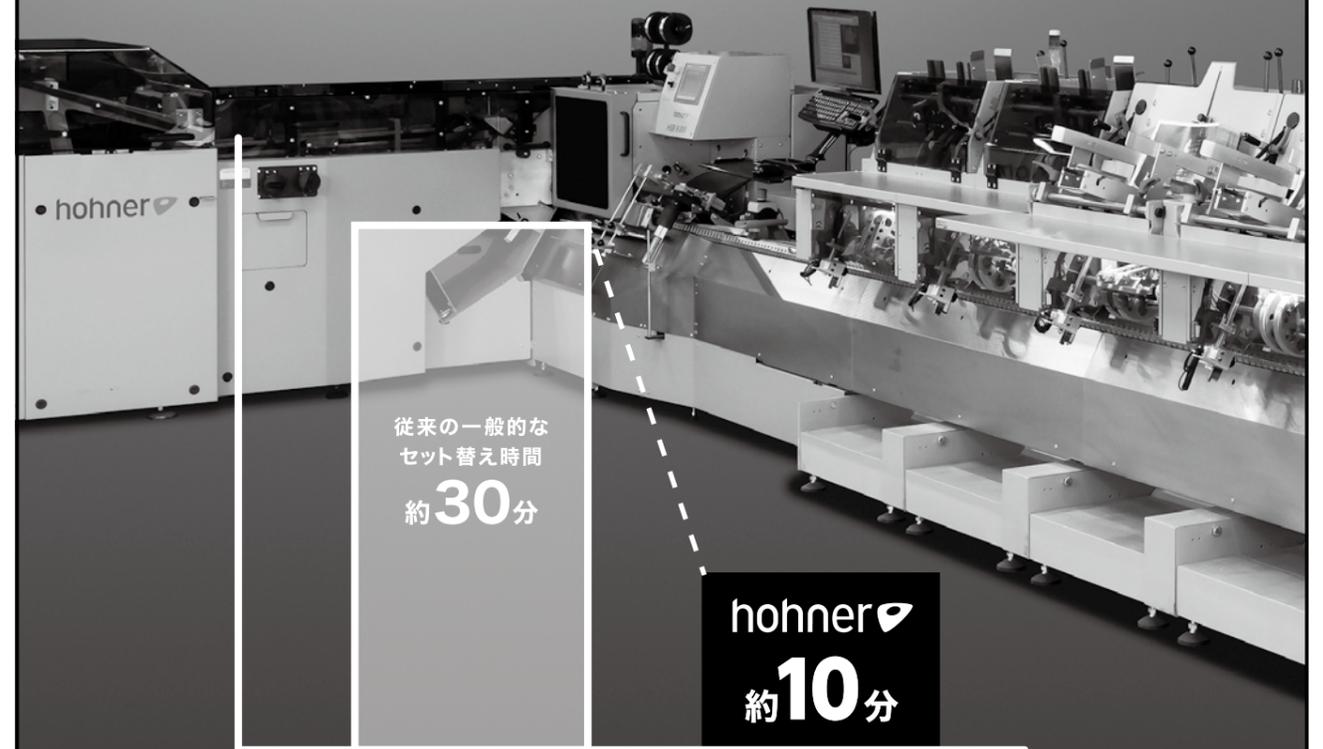
高知大会、行き届かないところも多々あるかと思いますが、おいしい料理やお酒はもちろん、私たちがどうしても伝えたい「志」が高知にあります。皆さまぜひぜひお越しくださいませ。

FUJIFILM
Value from Innovation

セット替え時間、3分の1。

欧州販売シェア2年連続No.1※の実績を誇る、独ホーナー社製中綴じ機。中綴じ製本の生産性を劇的に高める、次世代の世界標準。

※当社調べ。



中綴じ機のセット替え時間の比較

NEVER STOP

FFGS POSTPRESS SOLUTION

ホーナー社製 中綴じ製本機 HSBシリーズ

■実機見学をご希望の方は、担当営業へご連絡いただくか、QRコードから“ホーナー社製中綴じ機見学希望”と記入してお申し込みください。



ホーナー社中綴じ製本機 国内総代理店
富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社

謄写印刷と学校をテーマにした 滋賀県東近江 ガリ版伝承館が企画展を開催

『ガリ版のある風景—学校に刻まれた手刷りの温もり—』

新ガリ版ネットワーク事務局長 **田中 浩**

はじめに

滋賀県東近江市に所在するガリ版伝承館は、謄写版を発明・発売した堀井新治郎父子の本家の洋館を改修して、ガリ版文化の伝承を図ることを目的に平成10年に開館しました。その後、2004年に主屋部分を改修し、展示スペースが拡張されたのを契機に、秋に企画展を開催することとなり、今回で16回目を迎えます。これまでの企画展は孔版（謄写版）作家を取り上げた作品展が主でしたが、今回は謄写版が社会にいかに関与していたか、特に学校教育における謄写版が果たした役割を約180点の資料により、3つのテーマで実施しました。

●概要

名称 『ガリ版のある風景—学校に刻まれた手刷りの温もり—』

会期 2019年11月16日～12月1日（火休）

10時～16時30分

会場 ガリ版伝承館（滋賀県東近江市蒲生岡本町663）

主催 新ガリ版ネットワーク

協賛 蒲生コミュニティセンター

後援 蒲生岡本町自治会、ガリ版芸術村、蒲生地区まちづくり協議会

※開催に際し、下記の方々より資料提供と助言をいただきました。
安藤光信氏（アンドン・トーシャ店主/故 安藤信義氏の二男）、
三木敏正氏、山形謄写印刷資料館・後藤卓也氏/中央印刷(株)、
岩根順子氏/サンライズ出版(株)、東近江市近江商人博物館、
楠本公子氏/元小学校教諭・新ガリ版ネットワーク首都圏支部長

※新ガリ版ネットワークは、ガリ版に関する器材の提供や、史資料、情報を収集、発信するため1994年、東京を拠点に発足された「ガリ版ネットワーク」の事業を継承するかたちで2008年に拠点を滋賀県に移して発足した。事務所は、東近江市立ガリ版伝承館内。現在、個人会員49名、法人会員6団体。

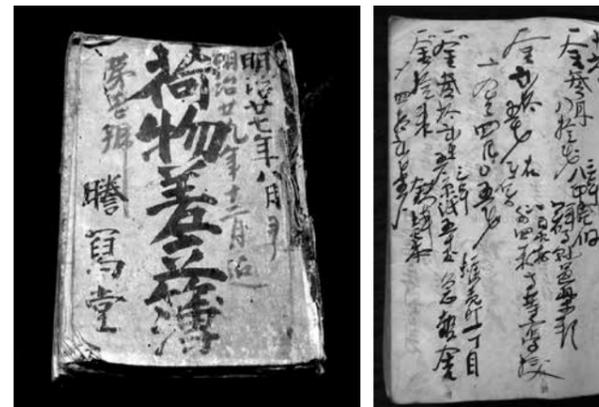
謄写版と学校

1894年（明治27）、滋賀県（東近江市蒲生岡本町）出身の堀井新治郎父子によって、簡易印刷器である謄写版が発明・発売されました。謄写版は、まず軍事通信に採用されたのを契機として、行政機関・学校等々で使用され、大正期には大衆文化の隆盛（映画・美術・文学同人誌・労働活動機関紙の発行等々）に大きく貢献しました。海外においても謄写印刷の果たした役割は小さくありません。まさしく、謄写印刷機は、明治～戦後まで激動期を支えた日本人のコミュニケーションツールでした。

特に教育の分野では、識字率の飛躍的な向上に寄与し、教育の近代化、諸制度・各種技術の西欧化を可能にした原動力であったと言えます。学校教育では、明治30年に東京帝国大学講師フォックスウェル先生の講義録（毛筆謄写版）で使われたのが最初とされ、以降、関東地方を中心に広がり、大正時代には全国の学校に普及しました。

堀井謄写堂の記録から見た学校への普及

滋賀県東近江市の旧堀井新治郎本家（以下「本家」）には、謄写堂（大正4年より堀井謄写堂に改名）創業当初の明治27年から昭和18年までの膨大な諸帳簿や、歴代の謄写版が土蔵内に残されています。これらは当初東京神田の本店にあったもので、大正12年の関東大震災で火災に遭い、建物は焼失したものの、帳簿等の重要書類は地震発生直後に運び出され難を免れました。その後、本家に移されたと考えられ、約半世紀にわたる営業実績を知る貴重な資料が守られてきたのです。この他にも、解説書・見本帳・図案集・写真帳が残っていますが、これらは元は本店にあったもので、平成に入って旧蒲生町（現・東近江市）に寄付を受けたものです。いずれも謄写版から生まれた文化を知る上で大変貴重であり、文化的な価値が高い資料であると言えます。



左) 謄写堂の『荷物差立簿』
右) 学校初の購入が記されている

これらの資料の精査は未だ行われていませんが、本展を開催するにあたって諸帳簿から学校への販売実績を僅かですが調べてみました。

諸帳簿の中には、創業当時の売上帳である「荷出張（荷物差立簿）」があります。この帳簿によれば、明治27年8月に謄写版が発売されて以降、学校で初めて購入されたのは、半年後の明治28年2月16日で、群馬県の小泉村（現・大泉町）ほか4カ村高等小学校とあります。謄写版1台（ハ印＝普及版）の価格が3円80銭とあり、当時は相当高価であったためか共同で購入したと思われます。

発売当初は、陸軍の軍事通信関係や外国人ジャーナリスト、個人名での購入が認められる中、明治29年末までに佐賀県・宮崎県の高等小学校計5校が購入したとの記載があります。

発売後7年が経過した明治34年12月19日～35年2月28日の3か月の荷出張には、旧制中学（現高等学校）からの購入が多く、高等小学校（現在の中学校）、師範学校・女学校（現在の大学）も増加しています。

明治44年1月19日から2月3日までの13日分の「行商人注文書帳※」によれば500件の注文の内、64件が主に高等小学校からの注文です。

大正13年6月9日～13日5日間の行商人注文書帳の記録によれば500件の注文のうち、学校149件と1/3以上に達しています。年間の注文件数は未調査だが、1週間で500件とすると単純に計算して年間約2万5千件となり、うち7千件以上が学校からの注文であり、し

※堀井謄写堂では、問屋を通さず直接販売する行商人制度を創業当初から採用した。その理由として、全く知られていない新商品である謄写版に対して、その効果を認めた上で代金を支払い、購入した使用者の要望を聞き取り、製品の改善向上を計ることが第一の急務と感じて採用した。また、当時としては画期的な販売方法で、改善された謄写版を有力問屋（伊藤喜商店/大阪/現・(株)イトーキなど）に持ち込み特約（店）を促した。行商人は責任販売としたために給料制を採らず旅費は自費の口銭制度として、努力を促すために高い割り戻しを給付した。創業当時の行商人には、荒尾親應が出生地の富山県魚津町を基点に徐々に東北地方へ、光延義民は京都市を基点に山陽・九州地方へ拡大していったとある（出典：堀井新治郎二代の家事・営業日誌「行商販売を契約シタル理由」より抜粋・要約）。行商人注文書帳は明治44年～昭和8年までの736冊が残っている。また外務員注文書と記載のある簿冊が大正6年から昭和7年までの315冊あり、行商人とは異なる雇用形態で全国に人員を配置していたと考えられる。

テーマ1「学校のガリ版印刷あれこれ」

学校でのガリ版印刷物と言えば、テスト用紙・学級通信・学校新聞が大半であるが、これらは主に先生（または生徒）が印刷したものです。

先生たちによるガリ版印刷物で本展での最も古い資料は大正12・13年の桜川尋常高等小学校（現・滋賀県東近江市立蒲生東小学校）の『童謡』と題した小冊子2冊です。これは、児童雑誌に掲載された生徒の自由詩をまとめたもの。このうち15点は綴方教育を先導していた鈴木三重吉が主宰する児童雑誌『赤い鳥』にも掲載されました。北方教育に代表されるように綴方教育には謄写版は大きな役割を果たしました。

80代のガリ版印刷を経験されたある先生は、「初任給の大半で謄写版を購入しました。教師としては今のパソコンと同様に必ず個人で1台必要でした。放課後や自宅で真夜中まで原稿をまとめ、ガリ切りして印刷するのは当時苦痛でした。でも、自分の思いを原稿にして、自分の字で、自分で刷った印刷物は、思いが伝えられるし、温かみも感じられ、生徒のためには良かったのでは」と語っています。

1960～70年代の安保闘争など学生運動では、主張ビラや集会ビラや報告会資料にも広く活用されました。こういった印刷物は処分されることが多く、本展では偶然にも残っていた京都府立医科大学の学生ビラ等を展示することができましたが、今の学生には考えもつかないであろう当時の熱い思いが綴られています。

謄写印刷業者に発注したものとしては、文集・修学旅行のしおり・歌集・参考書・講義ノートなどがあり、他に賞状や行事の広告チラシや学校図書といった多色刷りのもの



上) テーマ1「学校のガリ版印刷あれこれ」の展示
中・下) 植本十一が製版した『花咲く言葉』

も謄写版印刷され、早い・安い・どんなものでもできる、という謄写版の特徴を生かしてあらゆる学校印刷に採用されました。

謄写印刷業として最初に記録に現れるのは、明治40年頃より東大赤門前で大学の講義ノートを謄写印刷して販売していた文信社です。出展資料に大正8年、同社発行の東京帝国大学工業経済テキストがあります。同社は、作家・宮沢賢治が大正10年、岩手・花巻から上京し、半年ほど筆耕をしていたことで知られています。

第二次大戦後、活版が壊滅的な打撃を受けた中、謄写印刷業が急増して経済復興の下支えをしました。昭和34年発行の『孔版・軽印刷技術全書』（鶴書房／若山八十氏著）の付録によれば、全国孔版著名技術者名簿（179名）、全日本謄写印刷業組合員名簿（1357名）、孔版印刷関係器材製造販売所並に養成所名簿が掲載されています。1950～60年代は謄写版の黄金期とも称され、最も活躍した時代でした。この全日本謄写印刷業組合とは、ジャグラの前身の全日本謄写印刷業組合連合会（日謄連／1955～1961年）のことです。都道府県別に記載されていますが、組合に全く加入していない県もみられ、謄写印刷業者は

1500社をはるかに超え、筆耕と呼ばれた製版を職としていた人たちも多く、一大産業であったと言えます。

展示資料は、昭和初期から40年代のものが中心で、全盛期であったことを想起させる技術力の高い印刷物が多くあります。中でも、「絵本 花咲く言葉」（昭和25年発刊）は秀逸で当時の一流の孔版作家・植本十一の手によるものです。また、滋賀県彦根市のサンライズ（現・サンライズ出版）による洋裁学校の作品展や高校演劇部発表会のポスターなどはデザイン性に優れています。前出した全国孔版著名技術者名簿にも掲載されている岩根豊秀氏の作品で、このような多くの技術者が全国で競い合いながら、優れた謄写印刷を目指していたのです。

テーマ2「アンドー・トーシャと学校」

アンドー・トーシャは、兵庫県明石市の安藤信義さんが1960年（昭和35）に創業した謄写印刷を生業とした印刷店です。安藤氏は、県立神戸職業訓練所謄写印刷科で謄写印刷の技術を習得し自営に踏み切りました、すでにガリ版印刷の下降期で、市内でも同業者が次々と廃業する中でも、「私にはこれしかない」と経営を続けました。晩年の仕事は卒業文集や詩集など、学校関連のものが大半でした。

当時卒業文集を手にした中学生は「気持ちが伝わる」「ずっと大切にしたい」「読みやすく、親しみやすい」「美しくて印象に残る」「あたたかい」「便利な世の中だが、せめて文集ぐらいはいつまでもガリ版の方がいい」「つくった人の性格がにじみ出ている」「苦労がわかる」（明石市立錦城中学校第44、45回生の感想文）と。機械文明の中に育ったからこそ、手仕事の価値が理解できるのかもしれない。（引用文献：『ガリ版文化を歩く—謄写版の百年』志村章子著／新宿書房／1995年）

テーマ2「アンドー・トーシャと学校」の展示
安藤信義氏の作業場を再現した



安藤氏はこのままだとガリ版印刷はまったく姿を消してしまうとの思いから1991年に「ガリ版の灯を守る会」を発足。趣旨に賛同した放送作家の三条杜夫氏を灯台長、安藤氏が灯台守として活動を進めました。年1回の文芸誌『藁（ひこばえ）』、年4回機関紙「ガリ版の灯」を発行、1992年4月には会員120名。ガリ版技術の保存・伝承に尽力、平和や反戦を題材にした文集を発行しました。

映画「原爆の子」など反戦映画のシナリオをガリ版で復刻を機に新藤兼人や山田洋二監督との交流も深めました。

2010年、ガリ版人生の生涯を閉じましたが、亡くなる直前に製版まで仕上げていた寄稿誌『私のALWAYS』の原紙は、ご子息によってデジタルで印刷されました。最後のガリ版作品は親子共同で仕上げたことになります。

展示では、アンドー・トーシャの印刷所を再現し、安藤さんの手掛けた印刷物を手に取って見ていただくようにし、また映像でも紹介しました。本展にあたってアンドー・トーシャ並びに安藤信義氏の使用されていた器材や数多くの印刷物や資料を当館に寄贈頂きました。

テーマ3「教師たるもの、謄写版を持つべし」

1972（昭和47）年、大阪府に小学校教諭として採用された三木敏正さんは、教育者であり歌人であった斎藤喜博（1911～81年）の教室づくりの思想に感銘し「教師たるもの学校の備品でなく、個人所有の謄写版を持つべし」という斎藤氏の著書の一文を見つけ、初任給で謄写版を購入し、教室に謄写版を持ち込んで学習することを実践したガリ版教師です。

「教室経営を子どもたちと共同で行う。そういう教師像を学生時代から描いてきた。謄写版の一番よいところは、子どもたちとの共同作業が可能なことです」と語っています。

11月17日に開催された「ガリ版体験教室」の様



新ガリ版ネットワークの作品も販売しました

既に新型の印刷機も登場していた1970～80年にかけて、「生徒と一緒に教師でありたい」との思いから、文集・詩集・創作童話集・理科の観察日記等、何でもガリ版で刷りました。1990年代には、文集もワープロに代わりましたが、スポーツ大会の賞状やメダルは、子どもたちと特別授業として教室で刷っていました。

また、日本のボランティア団体とラオス教育者の招きで同国を訪れ、小学校教師などに謄写版を贈呈し、印刷や文集づくりを指導されました。このことが縁となり、同国と吹田市との間で交流が深められました。

展示では、洋館1階に小学校の教室を再現して、ビデオ紹介や印刷体験できるようにしました。また、11月17日には、「展示室の学校でガリ版体験してみよう」と題し体験教室を実施し、19名が参加されました。

おわりに

今回の企画展には全国から約500名の方々に来館いただきました。残念ながら滋賀の田舎町ということもあって、来館者はそう多くはありませんでしたが、わざわざ遠方からお越しいただいた方も多く、「懐かしかった」「当時の先生の苦労を知った」「活字と見紛う謄写技術の凄さに驚いた」「謄写印刷の歴史がわかった」等のご意見を頂き、好評だったようです。

ほんの20～30年前までは、全国には膨大な謄写印刷物が各家庭や印刷会社・官公庁・学校等で眠っていましたが、謄写版利用者が亡くなられたり、データのデジタル化が進む中、その多くが処分されてきました。謄写印刷物は、日本の近現代の発展や民衆の文化・芸術等、様々な歴史を知る上で欠かすことのできない資料です。今後も企画展等を通して収集に努めながら、その重要性を広めていきたいと考えています。

Horizon

Change the focus

「理屈」で考えるワークフロー、
ポストプレスにフォーカスしてみませんか



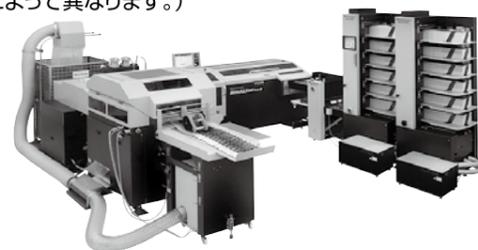
四六判半裁全自動紙折機+横型プレススタッカー AFC-566FKT+PST-44

大型カラータッチパネルを搭載し、用紙を1枚挟むだけで、全ての設定を数十秒で行います。便利なワイヤレスリモコンを標準装備し、操作パネルから離れている場所でも操作できます。



ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム StitchLiner MarkⅢ

厚みの異なる冊子に応じて各部を自動で調整、作業を中断することなく安定した高品質な製本を実現。A4S綴じ冊子は最高6,000冊/時間、A4E綴じ冊子は最高5,300冊/時間で処理することが可能です。(製本速度は紙質や紙の厚さによって異なります。)



自動無線綴機4クランプタイプ BQ-480

セット替えの高速化による、小ロット、バリエーション製本での高生産性を実現。1冊ずつ厚みの異なるバリエーション製本を最高で時間800冊で処理することが可能です。

PUR
対応



全油圧断裁機 APC-610

幅61cm、厚さ10cmまで一度に断裁でき、プレッシャとともに、カッティングも油圧式で強力です。



ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03(3863)5361(代) FAX.03(3863)5360
東京支社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL.03(3652)7631(代) FAX.03(3652)8083
京都支社 〒601-8206 京都市南区久世大藪町510 TEL.075(933)3060(代) FAX.075(933)4025
福岡営業所 〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092(626)8111(代) FAX.092(626)8112

TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月~金) 9:00~17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
<http://www.lithmatic.net>

オペレータースキルアップのために ジャグラコンテスト第1次審査課題解説^{最終回}④

InDesign 問題2: スクールパンフレットの制作

DTPオペレーターの技能を競う「ジャグラコンテスト」の第1次審査が終了し、昨年10月4日に順位が決定しました。第1次審査で出題された課題内容と審査の要点を連載でお届けします。(本連載は今回が最終回となります)

課題内容

InDesign「問題2: スクールパンフレットの制作」では、支給された素材、指示書を元に、JaGra スクールパンフレット(常設講座3種類の合計12ページ分)を制作するという課題が出題されました。



▲図1 InDesign「問題2: スクールパンフレットの制作」の完成見本

出題の意図

課題のパンフレットは定型フォーマットとなっており、支給されたテキストデータはタブ区切りテキストでしたが、「データ結合」を使うことで効率よくフォーマットにテキストを流し込むことができます。

「データ結合」と聞くと拒否反応(?)を起こす方もいらっしゃるかもしれませんが、使い方をすることで確実に効率化につながりますので、課題へのチャレンジを通して機能を習得していただきたいとの思いから出題しました。

課題のポイントと必須技能

パンフレット自体は定型フォーマットであるものの、各

項目に流し込む原稿量はバラバラであるため、原稿量の増減に伴って見出しの位置を手動で動かさなくてもいいよう工夫されているのが大きなポイントとなっています。また、必須技能としては、今後の改訂等でフォントの変更も考えられるため、段落スタイル・文字スタイルが適切に設定されており、一括で容易にフォントが変更できる設計にする必要があります。

①見出しの色帯

各項目には色帯の見出しがあり、【到達目標】と【カリキュラム】との項目間にアキ量(5mm)が指定されていました(図2)。模範データではこの部分を表組で作成していますが、段落境界線を組み合わせて作成してもよいでしょう。表組や段落境界線の組み合わせを使うことで色帯部分の構造がシンプルになり、オブジェクトとして作成するよりも扱いやすくなります(図2)。

②簡条書き

【到達目標】の内容(図2上)は簡条書きを使うことで行頭の●を自動発生させることができるほか、記号に文字スタイルを設定することで色等も設定することができます。また、【カリキュラム】や【受講前提スキル】の内容には行頭に番号を振ることになっていますが(図2下)、これらも簡条書きの自動番号を使うことで番号の自動発生ができるだけでなく、項目の入れ替えが発生しても手動で番号を打ち直す必要がなくなります。また、【カリキュラム】では見出しと本文が交互にくる内容(図2下)となって

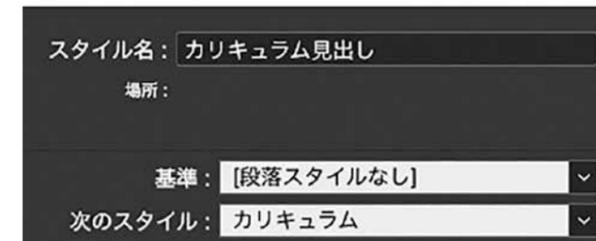
到達目標
●DTPとは何かを理解する
●印刷に関する基礎知識を身に付ける
●DTPに必要な環境とデジタルデータに関する知識を身に付ける
●Illustrator, Photoshop, InDesignの操作を体験し、操作感覚をつかむ

カリキュラム (10:00 ~ 16:30 5.5時間×1日間)
1. DTPの基礎知識 DTPってなに? / DTPに必要な知識
2. 印刷の基礎知識 印刷物ができるまで / 印刷方式 / 色の原理 / スクリーン線数

▲図2(上):【到達目標】内容 図2(下):【カリキュラム】内容

いますが、「次のスタイル」を使うことで見出しと本文のスタイルを一気に指定することができます(図3)。

段落スタイルの編集



▲図3:「段落スタイル」→「次のスタイル」の設定例。見出しの次に本文がくる構造の場合、見出しの段落スタイルで「次のスタイル」を設定しておく、本文に「次のスタイル」で設定した段落スタイルが適用される

③★マークの色付け

【難易度】の★☆の色付けは段落スタイルの正規表現スタイルを使うことで自動化することができます。

④テキストの増減に応じた枠の調整

指示書には「下の座標を基準に、テキストの増減に応じて上に表枠を伸ばす」と記載されていました。この処理は、各項目のテキストフレームに「自動サイズ調整」→「高さのみ」を設定することで自動化することができます。その際基準点を下に設定することで、原稿量の増減によってテキストフレームが自動で上に増減するようになり、位置を調整する必要がなくなります(図4)。



▲図4:「テキストフレーム設定」→「自動サイズ調整」の設定例

⑤色の指定

パンフレットは講座ごとに色の指定が異なっているため、必要な色がスウォッチに登録されているかもポイントとなっています。問題文には「InDesignデータは必要に応じて複数ファイルになっても構いません」と記載されているため、講座ごとにドキュメントを分けてスウォッチで色を変更する方法をおすすめします。

⑥Illustratorデータの配置時の設定

ページの小口側にはツメ(インデックス)が入りますが、問題文には「InDesignで作り直す必要はありません」と記載されていました。支給されたIllustratorデータ「index.ai」にはすべてのツメの内容がレイヤーを分けて

制作されています。これをInDesignに配置する際に「オブジェクトレイヤーオプション」を使って必要なレイヤーを選択して配置することで、ひとつのIllustratorデータで内容を管理することができます(図5)。ツメのファイルを分けて作成すると、色やフォント等に変更があった際、1ファイルずつやり直す必要があり、ミスの原因にもなります。



▲図5:Illustratorデータ配置時に「オブジェクトレイヤーオプション」を利用すると、必要なレイヤーのみ選択して配置できる

この課題で一番の難所は?

一番の難所はズバリ、この課題のメインテーマであるデータ結合です。データ結合を使い、なおかつ修正や原稿量の増減に対応できる効率的なフォーマット作成ができていないのが一番の難所であると思います。

課題出題者からのメッセージ

まず、【難易度】の★☆を色分けするという指示がわかりづらかったと思います。また、【カリキュラム】の内容で見出しと本文の区別がづらいところもありました。この場をお借りしてお詫びいたします。

今回取り上げたデータ結合は、プログラミング等の専門的な知識がなくても手軽に自動化できる便利な機能です。今回初めてデータ結合を使ったという方は、これをきっかけにマスターしてほしいと思います。

図版付き解説と模範データは特設サイトで!

ジャグラコンテスト特設サイトでは、第1次審査課題の解説全文を図版付きで公開中です。コンテスト未受験の方もご覧いただけますので、ぜひスキルアップにご活用ください。

また、受験者の方は、第1次審査課題資料に記載されたダウンロードID・パスワードを使用して、「ダウンロード」ページから課題の模範データをダウンロードいただけます。

▼ジャグラコンテスト第5回特設サイト
<http://www.jagra-contest.com/>

多言語ユニバーサル情報発信ツール

MC Catalog+

エムシー カタログ プラス



多言語に対応した デジタルブックを簡単に作成 手軽に配信・快適に閲覧

あらゆる紙媒体をデジタル化し、スマートフォンやタブレット端末に手軽に配信。さまざまなシーンにおいて、時間・場所・言語にとらわれず、情報発信から閲覧環境まで、ワンストップで最適な環境を提供いたします。



快適なユーザ体験をもたらす
多彩で豊富な機能を搭載

テキストウィンドウ
表示

自動音声合成
機能

SNS連携機能

ログ解析機能

配信エリア
指定

本文検索機能

高性能翻訳エンジン



モリサワは、日本障がい者スポーツ協会を応援しています

www.morisawa.co.jp

詳しくは [エムシーカタログ](#)

●記載されている会社名・商品はそれぞれ各社の登録商標または商標です。●本仕様は、予告なく変更する場合があります。

RICOH

imagine. change.

ようこそ、
可能性。

商用印刷や企業内印刷の最前線では、あらゆるシーンに可能性がひそんでいます。プロの現場の期待に応えるのは、さらなる高品質と用紙対応力を磨きあげた RICOH Pro C5200S シリーズ。この1台から、新たな付加価値を生み出すステージが始まります。



RICOH Pro C5210s/C5200s

www.ricoh.co.jp/pp/pod/

※写真はRICOH Pro C5210Sにオプションを装着したものです。

プロ、体感。 RICOH Printing Innovation Center ショールームスペース RICOH Proをはじめ、プロダクション プリンティング ビジネスの新たなソリューションをご覧ください。また DTP セミナーも定期的に開催中。お問い合わせ：050-3534-2121 ※ご利用は予約制となっております。詳細につきましては、担当営業または販売会社までお問い合わせください。

この広告は、リコーが提供する新しいクラウドサービスである RICOH Clickable Paper サービス*に対応しています。 * iPhone/iPad/Android™ アプリケーション「RICOH CP Clicker」(無料)をダウンロードし、広告を撮影(クリック)すると、商品のスペシャルサイトなどインターネット上の関連情報をご覧ください。 株式会社リコー 〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6 リコージャパン株式会社 〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2

※iPhone、iPadはApple Inc.の商標です。※iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもつき使用されています。※AndroidはGoogle Inc.の商標です。

理事会&委員会通信

1.8 理事会で中村会長続投を決定

2019.11.16 総務委員会

今年度の課題

岡本副会長より、谷川委員長・山本副会長と検討した結果を報告した。

①中村会長の続投が内定したので、体制を早く決めたい。

②現状、委員会が多い。委員重複も多いので削減したい。個人的には20～30%減らしたい。活動を充実させ、「強いジャグラー」につなげたい。

③事務局強化を図りたい。専門家の参加、業界のグランドデザイン提案、事務局はどうあるべきか等を検討したい。

【主な意見】

◎委員会を減らす→やることを「減らす」のではなく「まとめる」。

◎委員公募の際は、勉強したいだけの人が集まる傾向を防ぐため、活動の趣旨を周知して公募したい。

◎勉強したい人はいない、会員サービスができる人に限定する。

◎東京以外の人も良い（交通費のシミュレーションは必要）。

◎委員会開催は、東名阪で良いのでは。地協の活性化そのお手伝いをするスタンス。

◎現実的に、例えば仙台にもってきて、というのは難しい。南もそうだと思う。

◎担当副会長制は良い。

◎業界でやること、会社でやることを分けて考える。そうするとCSRやM&Aはいい。

◎単発的な情報発信はOK。M&A、POD等は部会ではなく事務局発信。

◎事務局強化が一番。会長・副会長のなり手が少ない中、なってもらえる組織にするには事務局強化が必要。

◎借入金なくなるタイミングはグッドタイミング。

◎そうしないと若い人が出てこない。年に一回、二回なら良いが、副会長みたいに年中会議がある場合はむずかしい。

◎地協は、ジャグラーの良さを維持して活性化したい。1社～2社では拡大はムリ。

◎補助金のもらい方、支援したい。

◎全印工連は経済産業省の補助金をもらっている。

◎事務局の業務、東グラと共通化・整理したい。

◎現状、業務内容は担当職員しか分からない。その職員がいないとまわらないのは良くない。ジャグラーと東グラと人事交流

をしたい。現状はジャグラー6名・東グラ5名。

【結論】

①事業の優先順位を決める。中村会長がリスト化し、優先順位の原案は岡本副会長が委員会に提案する。

②事務局強化はプロジェクトとしてすすめる。菅野副会長、山本副会長、岡本副会長、岡澤副会長、谷川委員長、沖専務理事（6名）。

◎総務委員会（於 東京ドームホテル「響」会議室）出席者
谷川聡 / 委員長：理事
山本耕司 / 副会長：担当役員、中村耀 / 会長、熊谷正司 / 副会長、岡澤誠 / 副会長、菅野潔 / 副会長、岡本泰 / 副会長、直原孝一 / 高知県支部長（中越忠男副会長代理）、沖敬三 / 専務理事
※臨席
守田輝夫 / 常務理事、並木清乃 / 事務局局長、長島安雄 / 総務部長

2019.12.16 第4回 CSR 委員会

環境対応企業取材中止の件

CSR 委員会では、毎年、GP 認定取得や環境優良工場表彰を取得するなど環境に取り組む企業を訪問し、インタビューを実施している。10月に電算印刷(株)（長野県支部）を訪問する予定だったが、台風19号の影響により延期となった。その後、日程調整が難航したため、今期は中止することになった。

グリーンプリンティング認定制度の普及について

日印産連の傘下団体別 GP 認定工場数を比較したところ、ジャグラーは1.5%（14社）と10団体中、下から2番目の低さだった（業界平均5.4%）。大日本印刷(株)、凸版印刷(株)がGP認定を取得するなど、今後業界を上げて認証取得の機運が高まると予想される。このため、GP取得企業を増やすために、以下のことを実施する。

①環境優良工場表彰を受賞していて、GPを取得していない企業にアプローチする。

②GP取得のメリットをHPに掲載する。

緊急連絡網の作成

近年、毎年のように地震や台風などの災害が発生しており、2019年も台風15号、19号による被害が発生した。このため、

どのような順番で被害状況を集約するかの手順を定めた「緊急連絡網」を作成し、支部長には全国協議会で配布した。

台風19号の際の事務局対応をもとに検証を行った結果、以下の対応を行う。

①災害が起こった際には、ジャグラー本部から被災エリアの会員に被害状況を支部長に報告してもらうためのFAXを送付する。（集約は、会員→支部長→地協会長→本部という流れ）

②ジャグラー緊急連絡の流れについて機関誌に掲載し、会員に周知する。（→20ページご参照ください）

環境優良工場表彰の件

第19回環境優良工場表彰の募集が11月18日より開始された。1次審査は11月18日～1月31日、2次審査は2月17日～4月10日で、例年よりもスケジュールが10日ほど早くなった。昨年と同様（13社）の応募をめざす。

委員会名について

現在のCSR委員会という名称はボランティア的な色合いが濃く、今の経営環境下で企業が対応する余裕は厳しい状況。また、CSR委員会という名称が実態とそぐわないという意見があり、委員会名について検討を行った。

代替案として、CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）＝「社会的価値と経済効果の双方の循環が、お互いを高め合う状況を可能にする」が提案された。また、2030年を目標年度としている国連によるSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）も候補となり、今後も検討していくことになった。

◎CSR委員会（於 本部）出席者
尾形文貴委員長、菅野潔副会長、青木滋理事、沖敬三専務理事、谷口理恵委員（東京・城東）、綿貫勝夫委員（東京・中央）、並木清乃事務局局長

2020.1.8 理事会を開催

ジャグラーは2020年1月8日、ニッケイビルにて理事会を開催。中村会長の続投、文化典高知大会の内容等を決定した。

×

第一号議案 役員派遣・スケジュールに関する件

省略：巻末スケジュールをご参照ください

第二号議案 役員改選に関する件

11月16日の役員推薦委員会での決定事項を笹岡誠委員長より報告した。

◎次期会長候補は、中村会長に続投要請をすると決定した。

◎委員会の役割は、候補者の推薦と各地協等選出母体からの推薦候補者の名簿の集約の二つがある。名簿の集約には時間がかかりそうだ。

《検討の経緯》 異議なく満場一致で承認した。

第三号議案 ジャグラー文化典高知大会に関する件

高知大会スケジュールの報告があった（別途ご案内予定にて詳細は省略）。なお、①前日～当日に「脱・倒産プロジェクト」を開催したいが、員外参加も求めて組織拡大につなげたい、②懇親会の配席は、支部や賛助会員のみで集まるのではなく、もっと相席状態にしたい——以上、西村啓実行委員長に臨席していただき、報告があった。

《検討の経緯》 異議なく満場一致で承認した。

第四号議案 次期年間スケジュールに関する件

省略（都度、ご案内いたします）

第五号議案 事業報告に関する件

省略（各委員会報告をご覧ください）

第六号議案 その他の件

1) 委員長会議について

谷川理事より報告した。

◎中村会長続投+業務の集約+事務局機能の課題を受けて、検討した。

◎以上を受けて、次期の予算を検討するはずであったが、決算資料が不足していて十分な検討ができなかった。

2) その他

◎日印産連「じゃばにうむ」セミナー（2月10日開催）について沖専務より報告した。

◎理事会（於 本部）出席者
会 長 中村耀
副 会 長 熊谷正司、岡澤誠、菅野潔、岡本泰、山本耕司、中越忠男
専務理事 沖敬三
常務理事 守田輝夫
理 事 渡辺辰美、向井一澄、宮本誠、尾形文貴、清水隆司、青木滋、中村盟、吉岡新、笹岡誠、原田大輔、高橋広好、谷川聡、岩下登、宮崎真、本村豪経、齋藤隆正
監 事 松永英明
◎欠席者
理 事 早坂淳、齋藤秀勝、吉澤和江、松本徹
監 事 佐藤順、前沢寿博

ジャグラ緊急連絡網

地震・大規模水害など緊急事態が発生したときの手順

- ① 身の安全確保、緊急避難、二次被害防止
安否確認(社員・家族・来訪者)
- ② 被害状況確認
本部よりFAX送付 → 該当被災地域の会員へ
- ③ 会員から被害状況の連絡 → 支部長へ
- ④ 支部長が担当支部の被害状況を集約
- ⑤ 支部長による状況報告 → 地協会長へ
- ⑥ 地協会長による状況報告 → 本部で集約

ジャグラ本部連絡先

Tel 03-3667-2271 Fax 03-3661-9006
E-mail jagra@jagra.or.jp

- ◎状況を見ながらできるだけ急いで連絡をするように心がけてください。支部長は日頃から支部会員とコンタクトを取り、携帯番号を把握しておきましょう。支部の緊急連絡網やLINEグループなどを整備しましょう。
- ◎お知らせいただく被害状況は、ジャグラ理事、地協会長、支部のみが共有するものです。第三者に漏らすようなことはありません。
- ◎本部が被災した場合は、別の支部(①近畿地協/②北海道支部・地協/③中国地協/④九州地協)の順で、会長指示のもと本部代行として災害対策本部を設置します。
- ◎災害用伝言ダイヤル(171)、災害用伝言版サービス(各社携帯メニューから)、災害用ブロードバンド伝言版(WEB 171)なども活用してください。サービスにより、録音時間の制限や48時間で消去されるものがありますので複数の方法で対応するようにしてください。
- ◎万が一被災してしまった場合は、自治体ではボランティアなどの人的支援、救援物資輸送、災害復旧貸し付け、債務返済緩和等の措置が取られます。
- ◎メーカーでは被災した機械の無償修理や代替機の貸出しなどがあります。各自治体やメーカーにお問い合わせください。

お客様の使用用途に合わせて

お好きなフォントを1書体から!



MOTOYA FONT SHOP ならではの「3つの安心サイクル」
試してから購入できるので安心!

書体見本

モトヤアポロ

表情豊かなモトヤ書体。
ABCDEFGH abcdefg 0123456789

モトヤ明朝

表情豊かなモトヤ書体。
ABCDEFGH abcdefg 0123456789

モトヤシーダ

表情豊かなモトヤ書体。
ABCDEFGH abcdefg 0123456789

Sモトヤ正楷書

表情豊かなモトヤ書体。
ABCDEFGH abcdefg 0123456789

 MOTOYA

大阪 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-10-25 Tel (06) 6261-1931 (代)
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-5-5 Tel (03) 3523-8711 (代)
URL <http://www.motoyafont.jp/>



SHOWA

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の「昭和謄写堂」として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。

創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション&リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

- 年間活動
- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
 - 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで
SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141(代) FAX 03-3263-6149

JaGPa News

業・界・の・動・き

ジャグラ関連 | 日印産連 | 印刷業界全般 | 行政情報 etc.

ジャグラ

11.20 第一回ゴルフ大会 マスターズクラブ



マスターズクラブ発足後第一回目のゴルフ大会が、2019年11月20日、茨城県の名門「茨城ゴルフ倶楽部」にて開催されました。

×

当日はプレーに絶好の秋晴れ。若干の風を感じながら4組でのコンペとなりました。グリーンは深いガードバンカーに囲まれ、樹齢を重ねた松林でセパレートされた茨城ゴルフ倶楽部。ゴルフ好きが集まり各組楽しみながらプレーが出来ました。

プレー後はパーティーが開かれ、参加者全員にお土産と各賞が配られました。次回は5月20日の予定です。今回参加できなかった皆様方のご参加をお待ちしております。

(文：同クラブ幹事・井上富美子)

ジャグラ

1.6 新潟県支部が合同で新年名刺交換会 新潟県支部

ジャグラ新潟県支部と新潟県印刷工業組合は1月6日、新潟市のホテルイタリア軒で、新年名刺交換会を合同で開催しました。

×

当日は地元政官界から来賓を迎え、盛大に新年を祝いました。高橋支部長は閉会の挨拶に立ち、「生産性向上と働き方改革への取り組みを通し、新しい印刷の価値観向上のために印刷工業組合と力を合わせて地元業界を盛り上げていきたい」と締めくくりました。

(文：新潟県支部長・高橋広好)

ジャグラ

1.10 山形県印刷関連業連絡協議会新年会 山形県支部



新年会で挨拶する後藤支部長

ジャグラ山形県支部の新年会が1月10日、「山形県印刷関連業連絡協議会新年会」として行われました。

×

当日は来賓を含めて133名の参加者がありました。新年会の前には講習会も行われ、多数の会員が出席。後藤卓也ジャグラ山形県支部長は新年会で閉会の挨拶を行いました。

「山形県印刷関連業連絡協議会」はジャグラ山形県支部・山形県印刷工業組合・製本組合・紙商懇話会・機材会等、山形県の印刷関連諸団体の合同組織で、毎年1月に新年会、10月に総会、各種セミナー開催等、さまざまな活動を行っています。

ジャグラ山形県支部単独の新年会は2月6日、5月開催の東北地協大会の準備会議を兼ね、山形市内で開催されました。

(文：山形県支部長・後藤卓也)

ジャグラ

1.17 合同新春講演会・新年交賀会 ジャグラ岩手県支部

ジャグラ岩手県支部と岩手県印刷工業組合は1月17日、合同新春講演会・新年交賀会を、盛岡市のアートホテル盛岡にて開催しました。

×

新春講演会は、明和総合特許デザイン事務所の藤掛宗則代表が、「印刷と知的財産権～デザイン価値をどのように価格に反映させるか～」というテーマで講演。社員も聴講して、有意義な時間となりました。

新年交賀会は荒川和行氏(楳文協印刷)の進行のもと78名参加で開催され、初めにジャグラ岩手県支部菅原正行支部長の



上) 弾けっぶりも見事なジャグラ岩手ダンサーズ
下) 余興のスコップ三味線 / 左は菅原支部長

挨拶、来賓祝辞・乾杯と続いて開宴。令和初の新年会は、来賓として地元議員の方が8名と沢山参加して下さい、業界の現状や要望などを説明し、理解して頂く良い機会となりました。

参加者一同、この一年を共に頑張ろうと情報交換・懇親を深め、余興では県議も交えた民舞やスコップ三味線などで汗をかき一体感のあるとても賑やかな会となりました。

(文：ジャグラ理事・向井一澄)

ジャグラ

1.17 新春祝賀会を開催
宮城県支部

ジャグラ宮城県支部の新春祝賀会が1月17日、江陽グランドホテルにて開催されました。

×

当日は、宮城県印刷工業組合・中村副理事長、宮城県製本工業組合・柴田専務理事、ニュープリンティング(株)・青木洋晃氏にご来賓として出席いただき、支部会員、関連業者を含め30



宮城県支部新春祝賀会で中締め挨拶をする田端支部相談役

名が新春の宴を寿ぎました。恒例となったビンゴ大会では一喜一憂の歓声が上がリ、談笑の輪が広がっていきました。なお、祝賀会に先立ち、永年勤続従業員表彰も行われました。

(文：宮城県支部長・熊谷晴樹)

ジャグラ

1.18 北陸地協新年会および総会を開催
北陸地協

ジャグラ北陸地協は1月18日、福井市のホテルリバービューアケボノで新年会&総会を開催しました(参加者11名)。

×

冒頭、高橋地協会長は生産性向上と働き方改革に取り組むジャグラ本部の事業をアピール。来賓として出席した中村ジャグラ会長は、地方会員の力強いバックアップと団結を呼びかけました。総会では事業報告と収支予算を承認、任期満了に伴う役員改選では高橋会長が再任されました。総会終了後、江守福井県支部長の計らいで夜遅くまで祝宴が行われ、名物のおろしそばを堪能するなど、親交を深めました。

(文：北陸地協会長・高橋広好)



上) 北陸地協総会の模様
下) 北陸地協新年会 / 養浩館庭園にて 中村会長と地協の皆さん

ジャグラ

1.20 新春賀詞交歓会に230人が参加
東京地協：東京グラフィックス

ジャグラ東京地協(公益社団法人東京グラフィックサービス工業会)は1月20日、上野・東天紅において新春賀詞交歓会を開催しました。



左) 東京グラフィックス新春賀詞交歓会の模様
日印機協・福和弘会長の乾杯ご発声で開宴

下/左から)
挨拶する菅野東グラ会長、祝辞を述べる中村ジャグラ会長、
文化典高知大会をPRする西村実行委員長



参加者は会員・賛助会員・来賓合わせて230人。冒頭挨拶に立った菅野会長は、同会の諸事業について紹介するなかで、今年度、東京しごと財団から受託した「団体別採用カスパイラルアップ事業」が、いよいよ2月27日のキックオフイベントでスタートすることを報告。業界課題である環境問題対応についても触れ、日印産連「GP認定制度」の活用等呼びかけました。続いて、来賓の中村ジャグラ会長が「昨年は新天皇即位など慶事があった一方、災害や消費増税・働き方改革など慌ただしい年だったと振り返り、今年に取り組むべき課題が多い年になるが、文化典高知大会やオリンピックを楽しみたい」と祝辞を述べました。また、当日駆け付けた高知大会の西村啓実行委員長より大会PRと参加の呼びかけがありました。

祝宴途中、東グラ総務委員会より「東グラ会員お役立ち情報」パンフレットの紹介、7回目を迎えた「ビジコン! 2019」(ビジネスアイデアコンテスト)の経過を報告。青年部FACEからはPrintNext2020のPRがありました。また、マジシャン聖寿によるアトラクションでは、見応えのある華やかなショーに参加者が見入っていました。

交歓会はとても良い雰囲気、最後までほとんどの方が残っていました。来賓の方々からも「東グラの新春賀詞交歓会をいつも楽しみにしている」とお誉めいただきました。

(文：東グラ会長・菅野潔)

ジャグラ

1.24 新年会開催
秋田県支部

ジャグラ秋田県支部は1月24日、秋田市の老舗料亭「濱乃家」で新年会を開催しました。

×

新年会は、松原巧秋田県支部長の挨拶で始まり、まずはこの会に自分と同じ女性の方が参加されたことに感謝を述べました。これは大変意味のあることで、全国で唯一の女性支部長で

あるからこそ、そのありがたさに感謝したのだろうと感じました。続いて、来賓の中村ジャグラ会長より、「秋田県支部がこのような盛大な新年会を開催することに敬意を表するとともに、来月、秋田市で開催されるPrintNext2020の準備に苦勞されている準備委員会の若手に感謝し、大成功を祈念する」との祝辞を頂戴しました。

新年会の余興では、今春、真打に昇格する秋田出身の落語家三遊亭たん丈さん(昇進後は三遊亭丈助)の落語を楽しみました。たん丈さんは若い頃、当支部・滝本副支部長の会社で働いていたこともある落語家です。

多くの関係者に参加していただき、秋田県支部の心意気を感じていただき、本当に意義のある新年会となりました。今年一年、平穩無事なネズミ年でありますようお願いいたします。

(文：ジャグラ副会長・熊谷正司)



上) 秋田県支部新年会の模様(枠内：松原支部長)
下) 記念撮影 多くの参加者で盛会でした

シリーズ 需要創出を考える⑬

印刷需要が低迷し、価格競争が激化する経営環境の中で、ジャグラー会員企業はどのようにして活路を見出そうとしているのかを探るシリーズ。今回はジャグラー作品展受賞企業の中から、広島県支部の株ニシキプリントさんの事例をご紹介します。

事例20 作品展 / 開発・開拓部門 作品展審査会委員長賞

地域発信サイト「安芸ん堂」でオリジナル商品を開発販売 「折鶴再生紙」を「あぶらとりがみの包装」に活用

広島平和公園に捧げられる千羽鶴の再生紙

パッケージ

(株)ニシキプリント(広島)

弊社における3つの改革

弊社は昭和42年に創業、文字もの頁ものに特化し、官公庁や学校関係を中心に仕事を受注してきました。近年では商品ニーズの変化にも合わせ、カラー化やオンデマンドの設備もしています。

創業以来、障害者雇用にも力を入れており、平成25年には「一般社団法人東広島自立支援センターあゆみ」を設立し、封入作業など仕事の幅を広げています。

また、平成27年にはWebサイト「安芸ん堂」を開設し、広島の良いものの発信のお手伝いをしています。

「広島」は地方都市とはいえ、近年地域経済は順調に推移しています。しかしながら印刷業界を取り巻く環境は厳しいものがあり、これまでのビジネスモデルからの脱却が必要であると考えています。そこで弊社では、以下の3つの改革にチャレンジしています。

- 1) 従来の印刷物の価値見直し(付加価値ある商品の提供)
- 2) トータルサポート出来るサービスの提供
- 3) 地域を発信する商品の開発

以前、「1) 従来の印刷物の価値の見直し」について、記事として取り上げて頂きましたので、今回は「3) 地域を発信する商品の開発」について説明させていただきます。

自社サイト「安芸ん堂」で地元をPR!

平成27年に開設した「安芸ん堂」は地域の良いものを発信する!をコンセプトに設立したWebサイトです。

まずは自社でオリジナル商品の開発からはじめました。

折鶴アクセサリー、国旗メモ、ドアノブサイン(次頁写真)など社員のアイデアで次々に商品化していきました。

そんな中、平和公園に捧げられる千羽鶴を再利用した「折鶴再生紙」の存在を知り、この紙を使って何か商品化できないかと試行錯誤を重ねた結果、商品化したのが今回作品展に入賞させて頂いた「あぶらとりがみ」です(パッケージに折鶴再生紙を活用)。

以下、開発の経緯と商品展開について、担当リーダーより説明させていただきます。

「あぶらとりがみ」開発の経緯

「折鶴再生紙を使って何か新商品作れない?」——社長の何気ない一言から始まり、安芸ん堂メンバーが新商品を考え始めてしばらくした頃、社員の一人が「あぶらとりがみのパッケージはどう?」とアイデアをくれました。

このアイデアを実現するため、何度も試作を重ねました。パッケージを型から起こした経験はなく、見様見真似でのスタートで、実際にやってみると様々な問題が出てきました。それら一つずつ改善し、ようやく納得のいく形ができあがりました。

温かみのあるイラストと広島弁のコメントで、楽しく広島らしさを伝えられるデザインに仕上げ、「広島あぶらとりがみ」として販売をスタートしました。

今回、ジャグラー作品展で賞をいただいた作品は、この「広島あぶらとりがみ」を目にされたJR様からお声がけをいただき、駅で販売する限定デザインとしてご提案したものと



同社が運営するWebサイト「安芸ん堂」
<https://www.akin-do.com/>



同社オリジナル商品のひとつ『ドアノブサイン』

です。駅名看板をモチーフに、各地の名所をイラストにして盛り込んだもので、同じく駅のホームをイメージした什器も一緒にご提案させていただきました。

現在、JR山陽本線の広島駅、宮島口駅、三原駅の3駅で販売しており、かさばらず、ワンコインで買えるお土産品としてご好評をいただいています。

(寄稿: 同社・宮崎真社長 / 担当リーダー渡部由加)



平和公園に捧げられる千羽鶴を再利用した「折鶴再生紙」を「あぶらとりがみ」のパッケージとして商品化。ディスプレイ什器も用意した(下)

1月の事務局日誌

- 6日 仕事始め、新潟県支部・印刷工組・合同新年名刺交換会（新潟市・ホテルイタリア軒）
- 7日 福岡県支部新年交歓会（アークロイヤルホテル福岡天神）→祝電
- 8日 新年挨拶（本部）→中村会長・菅野東グラ会長、委員長会議（本部）、拡大理事会（本部）、日印産連新年交歓会（ホテルオークラ「平安の間」）
- 9日 大阪府支部新年会（ウェスティンホテル大阪）→沖専務
- 14日 東印工組新年会（パレスホテル東京）→中村会長
- 15日 東グラ理事会（本部）
- 16日 日印機工年始会（東京プリンスホテル）、プライバシーマーク現地審査（都内）
- 17日 宮城県支部新年会（江陽ランドホテル）、愛知県支部新年集會（ザ・コンダーハウス）→沖専務、千葉県支部新年会（京成ホテルミラマーレ）→岡澤副会長、岩手県支部・印刷工組合同新年会（アートホテル盛岡）→祝電
- 18日 北陸地協総会・新年会（福井市）→中村会長、長野県支部講演会・新年会（長野市・ホテルメトロポリタン長野）
- 20日 東グラ新春賀詞交歓会（東天紅上野本店）→中村会長・沖専務
- 21日 関東複写センター新年賀詞交歓会（ロイヤルパークホテル）→中村会長・沖専務
- 22日 プライバシーマーク現地審査（鹿児島）
- 24日 広報部会（本部）、神奈川県支部新年会（横浜・菜香新館）→沖専務、秋田県支部新年会（秋田市）→中村会長
- 27日 プライバシーマーク審査会（本部）
- 28日 日印機協新年互礼会（銀座クレストンホテル）→中村会長・沖専務・守田常務・並木事務局長、プライバシーマーク現地審査（都内）
- 29日 プライバシーマーク現地審査（茨城）

2月のスケジュール（1月末現在）

- 1日 四国地協理事会（高知）
- 3日 プライバシーマーク現地審査（愛知）
- 5日 「PAGE2020」開会式（池袋サンシャインシティ）、ビジネス推進委員会・生産性向上部会・マーケティング部会（本部）、総務委員会（本部）
- 7日 M&A部会（本部）、ジャグラコンテスト専門委員会議（本部）
- 10日 日印産連「じゃばにうむ」（日印産連）
- 15日 プリントネクスト2020（秋田市文化本部）→沖専務、SPACE-21 幹事会（秋田市文化本部）
- 17日 プライバシーマーク現地審査（秋田）
- 21日 広報部会（本部）
- 28日 日印産連地球環境委員会（日印産連）→沖専務、関地協新年懇親会および幹事会（上野・翠鳳）

3月のスケジュール（1月末現在）

- 6日 日本プリンティングアカデミー評議員会（JPA）→吉岡理事
- 11日 日印産連ステアリングコミッティ・専務理事連絡会議（日印産連会議室）→中村会長・沖専務
- 12日 JAGAT 理事会（JAGAT）
- 18日 ジャグラコンテスト部会（本部）、教育・技術委員会（本部）、日印産連理事会（日印産連会議室）→中村会長・菅野副会長
- 19日 拡大理事会（本部）

事・務・局・便・り

6月のジャグラ文化典高知大会の申し込みが開始されました。「高知で世代交代！ジャグラをせんとくするぜよ」をテーマにジャグラの皆様のお越しを実行委員会総出でお待ちしています。高知は豊かな自然と美味しいものがたくさんあります。高知のお土産ベスト3をご存知ですか？ 1位：ごっくん馬路村、2位：塩けんぴ、3位：土佐銘菓かんざしです。（地元民おすすめおみやげランキング/じゃらん調べ）この機会にぜひ、高知へいらっしやいませ！（K.N）

月刊
グラフィックサービス
No.819
2020
02

月刊「グラフィックサービス」819号

- 発行日 令和2年2月10日（毎月1回）
- 発行人 中村 耀
- 編集人 早坂 淳
- 発行所
一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16
TEL 03-3667-2271
FAX 03-3661-9006
WEB https://www.jagra.or.jp/



ジャグラは一般社団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

- 編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎原稿/編集/校正

- 沖 敬三 守田 輝夫 長島 安雄
- 酒井 玲子 並木 清乃 阿部奈津子
- 今田 豪 (以上、ジャグラ事務局)
- 斎藤 成 (東京グラフィックス/広報委員)
- 藤尾 泰一 (㈱インフォ・ディー/広報委員)
- 日経印刷(株) (校正のみ)

◎渉外 守田 輝夫

◎広告 酒井 玲子

◎Web 阿部奈津子

◎組版/デザイン (㈱インフォ・ディー)

- 組版 = Adobe CS6/CC ほか
- フォント = モリサワ OTF ほか

◎製版/印刷 日経印刷(株) (東京・千代田支部)

- RIP = 大日本スクリーン Trueflow
- CTP = 富士フィルム XP-1310R
- 刷版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX
- 印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P
- インキ = DIC
- 用紙 = 三菱ニューVマット FSC-MX 菊判 62.5kg

※本誌はFSC森林認証紙（管理された供給源からの原材料で作られた紙）とLED-UVインキ（リサイクル対応型）を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。https://www.nik-prt.co.jp/

Copyright 2020 JaGra / 禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です。また、原則 TM・®マークは省略しています。※乱丁/落丁本はお取り替えいたします。

ジャグラ作品展

JaGra AWARD 2020

出版印刷物部門

宣伝印刷物部門

業務用印刷物部門

開発開拓部門

締切3月末日！
ご応募はお早めに



競え、プロの技。

- 募集対象 2019年中に完成した作品
- 発表 ジャグラHPおよび本誌6月号
- 表彰式 2020.6.6（土）
ジャグラ文化典高知大会（ホテル三翠園/高知県）
- 応募方法 応募作品に申込書を添えて、ジャグラ本部までご送付ください。送料は応募社負担となります。申込書（Word文書）はジャグラHPよりダウンロードしてください。

申込書に評価して欲しいポイントをわかりやすく書きましょう！

作品審査は3次にわたって公平かつ厳正に行われますが、審査員経験者から「申込書に評価して欲しい点をわかり易く記入している作品が、上位入賞を果たしている」旨のアドバイスがありました。申込書に書ききれない場合は、別紙添付でも構いません。

主催/一般社団法人日本グラフィックサービス工業会 主管/ジャグラ作品展部会
後援/経済産業省、厚生労働省、高知県、全国中小企業団体中央会、一般社団法人日本印刷産業連合会、公益社団法人日本印刷技術協会、日本印刷機材協議会、学校法人日本プリンティングアカデミー、業界報道関係6社（以上予定を含む）

一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 TEL.03-3667-2271 Fax.03-3661-9006
https://www.jagra.or.jp 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 ニッケイビル

Assist Your Potential

— 技術力と創造力で、あなたの可能性を支援する —

品質検査

濃度追従

見当調整

— ^み 視て、判断して、制御する —

PQS-Dがあなたの眼になる。

損紙を減らすことが求められる刷り出しの見当調整。
本刷り中の印刷障害や濃度変化に気を遣い、印刷物と
ずっとにらめっこ。神経をすり減らし、息つく暇がない
のが今の印刷現場です。

RMGTの印刷品質管理システム PQS-Dは印刷機上の
CCDカメラがあなたの眼となり、刷り出しから刷り
終わりまで、絶え間なく印刷物を監視しつづけます。
品質検査はもちろん、濃度追従や自動見当調整の機能
が、オペレーター^{たす}を援けます。



印刷機上の CCD カメラが印刷中の用紙を監視

RMGT ともに、世界へ彩りを。

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
〒726-0002 広島県府中市鶉飼町 800-2 TEL 0847-40-1600
<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>